

うちなー地域づくり大賞受賞団体

特定非営利活動法人

大賞

いけま福祉支援センター

今日も楽しいねと笑って生きられる島づくりを目指して

「地域の高齢者や子どもたちがいきいきと暮らせる環境づくりに貢献すること」を目的として、子どもの暮らしを包み育むプロジェクトと、高齢者介護事業を柱に取り組んでいる。

子どものプロジェクトでは、放課後児童クラブ“おやこぼし学園”にて、異年齢の子ども達が集う居場所を提供し、保護者とともに遊びを通して子どもの成長を見守る「サンマ」（時間・空間・仲間）を大切にしている。また「みんなのおうち」では18歳以下のすべての子どもが利用できるように公民館を活用し、昔この地域にあった、頼り、頼られ、助け合う子育て支援を行い、子どもの心に寄り添う活動を行っている。

高齢者事業では、小規模多機能型事業所“きゅ〜ぬふから舎”を運営。「池間島から離れたくない」「住み慣れた自宅で暮らし続けたい」という島民の切実な声を受け、2006年に開所。地域密着を目指し、地域の人



地域の人を看ることができるよう、島民を採用し、働きながらの資格取得もバックアップした。

このことで、加齢による生活の不自由さから、やむなく島を出なければならない高齢者は減り、安心して島の人と一緒に過ごすことができるようになった。

他機関や団体との積極的な連携を図る



他団体との連携による取り組みも積極的だ。その一つが「すまだてい（＝島おこし）活動」。島の様々な問題（耕作放棄地、イーヌブー（池間湿原）の陸地化、景観の悪化等）に対し、島内の各種団体と連携しながら、ボランティアも含めた協力の下、継続的に耕作放棄地再生プロジェクト（収穫物を活用

カテゴリー 子どもの健全育成／健康・福祉

住所 宮古島市平良字池間90-6

電話番号 0980-75-2870

設立 2004年9月

人数 30名

主な活動 子どもの暮らしを包み育むプロジェクトや介護事業等の地域福祉を通じた地域づくり活動

受賞歴 平成29年度 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞
平成30年度 「沖縄、ふるさと百選」 集落部門認定
平成30年度 全国「地域再生大賞」準大賞

した島の特産品づくり)や緑化活動等を行っている。

2011年から始まり恒例行事として定着している、11月3日(マークツツの初日)に開催する「池間島大演芸会」では、普段は池間島の外で暮らす家族や親せき、同級生たちが集合する中、池間小中学校の子ども達や老人クラブ、各種サークル等の個人・団体が競うように出演。多世代間の交流促進につながっている。

また、池間島カレンダーの売り上げを原資として「すでいがふう奨学金」を2018年に創設。返済不要の奨学金を毎年春、島から進学する高校3年生に贈呈することで、島の未来を切り開く子どもたちを島民や郷友会等が

応援する仕組みとなっている。

これらの活動母体として、「いけま島おこしの会」を自治会や漁協、老人クラブや郷友会等の関係団体とともに結成し、月1回の定例会等を通して課題を共有。「すまだてい活動」として、池間漁港周辺の緑化イベントや島おこしに関する講演会、「すまだていだより(全戸配布)」による情報共有等の取り組みによって、島民が一体的に活動・連携を図れる基盤づくりに貢献している。

未来へのビジョンは大きく、夢を持って

「NPOの仕事は基盤を作ること。事業が他でもできる状態になれば、移管するのは当たり前」と代表の前泊さんは言う。実際、民泊事業と仕事の場作り事業は、培ってきた経験や知識と共に、設備までの全てを元職員に引き渡した。「自分のものだと思うと手離すことはできない。でも、地域づくりはそうじゃないから」

「ゆくゆくは、高齢者の事業も信頼できる所に任せ、子どもの健全な成長を促す環境作りにもっと注力したいのだ」と言う。「島の未来のためにも、子どもが力をつけられるようサポートしたい。そのために今、色んな研修を受けながら勉強しています」前泊さんの挑戦はまだまだ続きそうだ。

